

東大病院抗アミロイド抗体薬点滴の運用につきまして

レカネマブ・ドナネマブ投与までの流れ

1.物忘れ外来（初診）で問診、採血、心理検査を実施します。

ご本人の様子がわかる介護者・ご家族と一緒にご受診ください。

MRI を頻回に撮影するため、MRI 禁忌（ペースメーカーや人工内耳）の方は対象になりません。

2.心理検査で、レカネマブであれば MMSE22 点以上（30 点満点）、ドナネマブであれば MMSE20 点以上、CDR（介護者・ご本人からお話を伺う検査）0.5-1 の軽度認知障害 MCI～軽度アルツハイマー型認知症を疑う患者さんは MRI で脳出血や脳梗塞の確認をします。

3.レカネマブ・ドナネマブ適応と考えられる患者さんは、下記のいずれかの検査を行います。

1) 髄液アミロイド検査（入院）

2) アミロイド PET（外来で約 24 万円の検査で保険がききます）

レカネマブ適応とならなかった患者さんは、通常の認知症治療を行います。

レカネマブ・ドナネマブ投与について（上記検査でアミロイド陽性だった場合）

初回レカネマブ投与は、東大病院では入院（2泊3日）で行います。点滴による副作用（アレルギー、頭痛、吐き気、発熱、関節痛など）の経過をみるためです。

2回目からは2階内科で診察→B棟12階免疫疾患治療センターで点滴（1時間程度）し会計となります。準備や会計計算などで3-4時間程度かかります。外来の点滴は、現時点で月曜日・水曜日のみの受け入れとなっております。予約日、予約時間にお越しください。月曜日が祝日の場合は、他の曜日（木曜日以外）に点滴します。

効果と安全性評価のため全例登録制になり、2週間に1回（レカネマブ）/4週間に1回（ドナネマブ）の点滴や頻回のMRIの検査をきちんと受けていただく必要がございます。ご本人ご家族のご協力が何よりも必要になります。

レカネマブ・ドナネマブ投与開始から半年後

投薬半年後（脳出血・脳浮腫のリスクが減ってくる時期）からは、クリニックなど他院で点滴をうけていただき、半年ごとのMRIと心理検査は当院にお越しいただきます。

また、頭痛やめまいといった脳の副作用症状が出現したときは当院を受診いただきます。

ドナネマブでは投与開始から12ヶ月以降にアミロイドPETを撮像する場合があります、こちらでも当院で撮像いたします。

よろしくお願ひ申し上げます。

2025年7月15日 認知症センター